

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	37597
事業名	冬みち地域連携事業費					
評価担当課	所属名	建)土木部 雪対策室事業課				
	課長名	井上 実	担当者名	松村 武彦	電話番号	011-211-2682
施策名	主	雪と共存した暮らしの推進				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	除雪に関する地域課題の解決に向け、地域力を組み合わせて地域の実情に沿った各種取組(子ども、企業、町内会等を対象とした取組)の拡大・拡充を行う。			
		長期	現在から未来に向けて、冬のマナーの向上や地域内でのボランティアの浸透が図られ、除雪における地域力が高まることで、安心・安全で暮らしやすい冬みち環境の構築を目指す。			
	取組内容	将来のまちづくりの担い手である子どもたちへの除雪に対する意識を浸透させるとともに、未来にわたって市民(地域)・企業・行政が連携し、地域除雪力を高めるための各種取組を行う。 ・小学生を対象とした雪体験授業(除雪に関する体験学習)/札幌雪学習の実施 ・団体(町内会・学校・企業等)による地域除雪ボランティア活動への支援 ・地域懇談会のフォローアップ開催 など				
	実施結果	雪体験授業を179校で実施。地域除雪ボランティア活動への支援として、学校、町内会等の50団体に除雪用具を貸出。また40団体に小型除雪機を貸出。その他、町内会との懇談会、意見交換会、合同パトロール等を開催。				
事業実施における工夫点	小学生を対象とした札幌雪学習の推進のため、小学校教諭、教育委員会職員、区土木部職員を委員とする札幌雪学習プロジェクトを設置し、学習パッケージや学習資料(副読本)の作成やニューズレターの発行等を行っている。					
対象者	市民	開始	平成27年度	終了	0年度	
関連法令・条約・要綱等	自治基本条例、子どもの権利条例、地域除雪ボランティア活動に伴う除雪用具貸出要領、小型除雪機貸出制度実施要領、札幌市除雪機械購入補助金交付規則					
他都市の状況	事業としては他都市に例はないが、各種取組によっては他都市でも実施している。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	41,253	51,300	42,269	51,300	
うち特定財源	0	0	0	0	
人工	0.9	0.8	0.8	0.7	
人件費	6,480	5,760	5,760	5,040	
計(事業費+人件費)	47,733	57,060	48,029	56,340	
事業費の内訳	令和3年度決算	事務費:2,639千円、報償費:292千円、需用費:9,361千円、役務費:31千円、委託料:24,168千円、使用料及び賃借料:496千円、備品購入費:1,495千円、負担金:3,787千円			
	令和4年度予算	事務費:6,000千円、報償費:200千円、需用費8,000千円、委託料:34,900千円、使用料及び賃借料:1,200千円、負担金:1,000千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	雪体験授業実施学校数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	158	199	179	184	
活動指標2	指標名	公園等の活用による地域内雪処理の推進			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	1,519	1,475	1,535	1,535	
成果指標1	指標名	除雪ボランティアに取り組む団体数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	125	133	134	140	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	B	<ul style="list-style-type: none"> 雪体験授業は全199校に対し179校で実施。 地域の除雪ボランティア活動への支援(用具貸出)は50団体に対して実施。 地域連携として、懇談会・意見交換会・合同パトロール等を10団体で実施。 			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	<ul style="list-style-type: none"> 雪体験授業は、冬の暮らしのマナーや除排雪事業への理解が向上するよう、また地域でのボランティア活動が推進するよう、長期的視点で実施しているものであり、毎年全小学校で実施することが妥当である。 地域連携は、前事業(地域と創る冬みち事業)で行った、地域ごとの課題解決の取組を踏襲し、フォローアップとして継続していく。 			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	<ul style="list-style-type: none"> 雪体験授業や地域連携は、地域の状況を熟知している区土木センターが専門業者にサポートを委託しつつ学校や地域と連携して実施しているものであり、事業の効率的な実施主体として妥当である。 企業による除雪ボランティアの取組について拡大余地があると考えられることから、事業検討が必要である。 			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	B	<ul style="list-style-type: none"> 雪体験授業は、小学生生徒の反応が良く、先生方からも授業構成や企画内容についておおむね好評価をいただいている。 地域連携は、前事業(地域と創る冬みち事業)で実施した地域懇談会による高い評価を継続できるよう引き続き地域との連携を図っている。 			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映	
今後の改善点	<ul style="list-style-type: none"> 「冬のみちづくりプラン2018」の内容などを踏まえながら検討する。 雪体験授業については事業効果をさらに高めるため、土木センターとともに随時内容の見直しを行う。 地域連携については、企業による除雪ボランティアの取組推進について模索・検討しながら進めていく。 				
前回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	雪体験授業および札幌雪学習の取組について全小学校にアンケートを実施し、先生方からの事業に対する評価を確認		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	・毎年改善しながら事業を進めていくことが望ましいため				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	○ 改善 ● 現状維持 ○ 休止・廃止 ・雪体験授業や地域との連携に関する事業は、その効果を発揮するためには長期的な視点で継続していく必要がある。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ その他		見直し効果額	0 千円
		・事業内容の検証を踏まえ、適切な予算措置を行う。			